



## 「東北スポーツボランティア・サミット」in山形開催

山形・新潟・仙台のボランティア組織が持ちまわりで年一回開催している「東北スポーツボランティア・サミット」の第4回が、2月17日(日)山形市の市民活動支援センターを会場に開催されました。前日夜には親睦会があり夜遅くまで交流、翌17日からの参加者も加え約30名の関係者が集まりました。



最後に障害者車いすサッカーの皆さんも一緒に記念撮影をして閉会しました。

- 主催 モンテディオ山形運営サポーター  
Aile(エール)
- 協力 東北芸術工科大学 (山形)  
SV2004 (宮城)  
Aliance2002 (新潟)  
仙台プロスポーツネット (宮城)
- 参加団体 <上記団体を除く・五十音順>  
グランディ・21ボランティア (宮城)  
仙台89ERSボランティア (宮城)  
ベガルタ仙台ボランティアクラブ(宮城)  
ホームタウン TENDO 推進協議会(山形)  
楽天イーグルスボランティア (宮城)

東北スポーツボランティアサミット in 山形

日時 2008年2月17日(日) 10時 ~ 13時 <オプション 16日(土)19時より親睦会 >  
霞城セントラル22F 市民活動支援センター 会議室

### 基調講演

関連情報 河北新報掲載ニュース 2008/2/18

<http://jyoho.kahoku.co.jp/member/backnum/news/2008/02/20080218t55010.htm>

#### 「スポーツを通じたまちづくりデザイン」

東北芸術工科大学 メディア・コンテンツデザイン学科 平林 千春教授

山形での「東北スポーツボランティアサミット」の基調講演は、モンテディオ山形と連携し「スポーツと地域のデザイン」を考える東北芸術工科大学の平林教授によるもので、デザインとは人々の心の底に潜む期待や希望を具体的なものやかたち・イメージとして表現していくプロセスということで、地域の人々にとって期待の大きい「スポーツ」を通じて、「共感・感動・参加」を具体化することは、地域の活性化につながると考えているそうです。

講演は、20世紀最大のヒット商品ともいえるサッカー、特にJリーグの考え方や各クラブの特色を詳しく説明、地域の財産としてさまざまな形で市民が関わる中で、ボランティア活動も不可欠になりつつあるとし、東京マラソンにもふれていました。

モンテディオ山形との連携については、「観客数の少なさ」「地域全体で支える基盤が弱い」「サポーターが参加する場が少ない」「サポーター以外のファンが増えない」「スポンサー不足」を課題とし、ゲーム以外に地域の人とチームが触れ合う場が必要と提案、一方、チームの経営母体がJリーグ唯一の社団法人(山形21世紀スポーツ協会)であることから、より地域の公共の財産の役割が強いとし、地域に根ざすためには「ブランド」価値をどう構築・増大させる取り組みが必要とのことでした。

実際のクラブと大学の連携では、マスコットキャラクターのデザインと製作、スタジアムに掲揚するチームフラッグのデザインなどが計画されているそうですし、学生がボランティア活動に参加することも推奨しているそうです。

## 東北スポーツボランティアサミットの歴史

第1回 2005年2月5日～6日 開催地 (山形)  
「雪の山形あったかサミット」 会場 スポーツプラザ21



2月5日 参加団体の活動事例発表  
分科会 ボランティア同士のコミュニケーション  
親睦交流会

2月6日 オプションツアー < やまがた散歩 >  
分科会 ホームタウンのためにできること  
オプションツアー < かみのやま温泉足湯めぐり >

第2回 2006年2月4日～5日 開催地 (新潟)  
会場 ビックスワン



2月4日  
活動事例発表会  
基調講演  
「Jリーグの地域貢献活動  
について」  
Jリーグ選手会  
加藤事務局長

親睦交流会  
2月5日  
意見交換会  
「ボランティアの  
認知アップのために」  
オプションツアー  
アルビレックス新潟  
クラブハウス見学など



第3回 2007年2月10日～11日 開催地 (宮城)  
会場 宮城スタジアム



2月10日  
宮城スタジアム見学  
ボランティア意見交換  
親睦会

2月11日  
フルスタ見学会

午後からは環境NGOである「みやぎ・環境とくらしネット  
ワーク」(略称 MELON)主催のエコ・イベントに自由参加  
いたしました。

## 活動事例

東北スポーツボランティアサミット  
In 山形

仙台プロスポーツネット 佐々木 知廣さん

仙台を拠点とする3つのプロスポーツ「ベガルタ仙台」「東北楽天  
ゴールデンイーグルス」「仙台89ERS」の各支援組織の連携によ  
り、3球団の連携を進め、仙台のプロスポーツを全国に発信、地  
域密着・相互の活性化を図る目的で2007年に発足、ここまで  
シンポジウムやコンクール・観戦企画などを実施

グランディ・21ボランティア、楽天イーグルスボランティア  
仙台89ERSボランティア、SV2004、MELON  
村松 淳司さん



グランディ・21ボランティア  
プロジェクトX風に、ボランティア組織誕生の歴史を説明  
楽天イーグルスボランティア  
プロ野球初のボランティア組織として2005年発足  
仙台89ERSボランティア  
プロバスケットのbjリーグで活躍、2005年発足  
市民スポーツボランティア SV2004  
横断的なスポーツのボランティア活動をサポート、楽天や  
仙台89ERSのボランティアアドバイザー、2004年発足  
MELON (みやぎ・環境とくらしネットワーク)  
環境NGOとしてプロスポーツのエコ活動をサポート

ベガルタボランティアクラブ 加藤 政雄さん

ベガルタ仙台のホームゲームを中心にサポートしており、2006  
年から自主運営制度がスタート、自分たちで企画し実行するこ  
と、エコ活動、ユアスタでの他種目のサポートにも取り組んでいる

Alliance2002 金子 法泰さん

もくはちクラブというサッカーを楽しむ企画を継続、アルビレックス  
新潟とも連携、国体やビックスワンのボランティアなどとのネットワ  
ーク作りにも参加している

ホームタウンTENDO推進協議会 森谷 倫祥さん

地元にあるプロスポーツとの連携をめざし、2008年9月に「Jリ  
ーグホームタウンサミット」を開催予定である



# スポーツボランティア やってみませんか？

## ボランティア入門のための説明会

今、多くのボランティア組織で登録者数の減少が続いています。認知を高め、少しでも関心をもってもらえるように宮城県内で活動するボランティア組織が合同で「ボランティア入門説明会」を仙台市内で開催し、結果会場の定員となる30名が集まりました。

日時 2008年2月17日(日) 13時より15時 場所 仙台市産業・情報プラザ(アエル5F) 情報化研修室  
主催 SV2004 協力 (株)楽天野球団 / スペシャルオリンピックス日本・宮城 / グランディ・21ボランティア



【 グランディ・21ボランティア 】 写真 上

宮城スタジアムを中心として活動している施設型ボランティアで、説明はプロジェクターを使用して宮城スタジアムでの国体・Wカップを中心としたイベントの歴史を振り返り大型のイベントが終わってから、施設を住民・県民にとって身近で愛されるものとなるよう、ボランティア組織が誕生したいきさつと、イベント運営やスタジアム見学案内、情報発信などの活動について説明。今年の募集はスタートしており、県民に愛される「グランディ・21」作りに熱意のある方や2008年1月1日現在で満16歳以上の方であれば応募でき(未成年者は親の同意が必要)、今年からちよいボラ(ボランティア体験)の制度もスタートしているとのことでした。

詳しくは公式ホームページをごらんください。  
<http://www.miyagi-sports.net/grande21/>



【 楽天イーグルス・ボランティア 】

2005年に50年ぶり新球団としてリーグに参戦した楽天イーグルス、誕生当初から「地域密着」のスローガンのもと、プロ野球では初めてのボランティア制度を導入しました。その中心となるのは「ごみの分別」によりリサイクル率のアップをめざすとともに、観客と共に地球環境を考える「エコボランティア」活動と、ゲームの無い日にホームスタジアムである「Kスタ」を身近に感じてもらう「見学案内ボランティア」活動です。

現在、新年度のボランティア募集がスタートしており、シーズン中にはさまざまな交流会などの企画もあるため、楽しみながら参加してほしいとのことでした。

詳しくは公式ホームページをごらんください。  
[http://www.rakutenagles.jp/company/r\\_treatmentC.php](http://www.rakutenagles.jp/company/r_treatmentC.php)

【 スペシャル・オリンピックス日本・宮城ボランティア 】 写真 下

1962年に知的障害のある人々の自立と社会参加をめざして日常的なスポーツトレーニングとその成果を発表するための競技会を提供する組織として誕生、宮城には1995年に国内6番目の地区組織として誕生し、おおくのアスリート(スポーツ活動に参加する知的障害のある人々)がさまざまなスポーツを楽しんでいます。経験はなくてもボランティアに参加していただける方を募集しています。と説明がありました。当日は世界大会にも参加されたアスリート代表からも呼びかけがあり、会場が暖かい熱気に包まれました。スペシャル・オリンピックス(略称SO)は、「コーチ・アスリート・ボランティア」の会員募集も行っています。

詳しくは公式ホームページをごらんください

<http://www.son-miyagi.jp>



【 市民スポーツボランティア SV2004 】

サッカー・国体・ワールドカップなど様々なスポーツのボランティアを体験した有志が集まり、幅広いスポーツ・イベントの盛り上げと、スポーツのボランティアに関する「環境・研修・交流」の活動を行うため2004年に誕生した、全国的にも珍しい市民型スポーツボランティア組織です。誕生後、新たに発足した「楽天イーグルス」「仙台89ERS」などのプロスポーツのボランティア組織の立ち上げに参加、現在もアドバイザー組織として関わっているほか、「世界バスケットボール選手権」やサッカーの「日本代表戦」などもサポート、会員の意見をもとに自主的な活動を行っています。今後はボランティア同士の交流促進などにも取り組み「楽しい」活動をサポートしていきます。詳しくは公式ホームページをごらんください。

<http://www.miyagi-sports.net/sv2004/>

## 東京マラソン2008のボランティアに参加して

「東京がひとつになる日」東京マラソン2008が2月17日に開催されました。3万人のランナーに「あなたの笑顔がチカラになる」として1万2千人のボランティアがサポートをしました。私はこのマラソンフィニッシュとなる東京ビッグサイトにいるいろいろある業務の内、会場誘導を努めさせて頂きました。この持ち場は範囲が広く(スタジアム一周位)多くのポジションに分かれ、全体の責任者、東の責任者、西の責任者、それぞれに補佐等々それからリーダーそれぞれにサブリーダー場所によってはリーダー、そこに一般ボランティアで総勢100名近い体制となりました。導線の確保やスムーズな人の流れを促すこと、聞かれたことに対してのご案内等さまざまなことに対応することと思って活動をしてきましたが、実際いろいろなことがありました。キレた人にも何とか対応し要求する所まで案内をしたこともありました。

市民ランナーに対しておにぎりや米粉パン更に足湯、そしてマッサージ等のおもてなしもありました。ランナーのみなさんに完走おめでとう等々労いの言葉を掛けながら、サービスのご案内・待ち合わせスペースやお帰りの駅等のご質問にお応えをしてきました。「楽になった」とか「美味しかったありがとう」等々の言葉が返ってくると、おもわず何人もの人と握手をしていました。多くの方々に助けていただきまして楽しいボランティア活動をすることが出来ました。私がスポーツボランティアをはじめたころの原点を垣間見たような気がしました。おもえばリーダー養成研修からはじまりミーティングを重ね下見を行いその準備の手はずまで、なにかからなまで笹川スポーツ財団のみなさんのご苦労によって進めていただき、お蔭様で楽しくしかも充実した日々になりました。私はこの日の為にと暫く前から酒を断ち、体調の維持管理に努めてきました。終わってから心地よい疲れの中自宅で寛いでのビールは格別でした、またうまいビールが飲みたいものだと思います。活動歩数は29114歩、自宅を出て帰るまでは32888歩でした。

ご参考までに東京マラソン2008ボランティア応援ブログ(SSF 笹川スポーツ財団の東京マラソンチームスタッフによるブログ)のURLを貼付しておきます。 [http://blog.livedoor.jp/ssf\\_tokyomarathon/](http://blog.livedoor.jp/ssf_tokyomarathon/)

A.W

## 東京マラソン 2008 ボランティア活動を終えて

「東京マラソン」のボランティアに参加することになった動機は、とても不純でした。友人がランナーとして申込をしていたことを知り、大会の規模なんてまったく知らずに「当日ボランティアとして目の前に現れたら、さぞや驚くだろうな」と思ったのです。

結局、友人は去年に続き今年も抽選に漏れ、未だ走れずにいますが、私は昨年の大会前にはボランティアリーダーの講習を受講しリーダーとして参加、さらに今年はリーダーから選ばれたキャプテンとして、より深く関わらせていただくことができました。キャプテンになって思ったことは、「リーダーさんの状況判断力とムードづくりは命だ」ということ。マラソンのような大会ボランティアと、Jやbjなどリーグ戦でボランティアの活動を行うにあたっての相違点は「ボランティアメンバーとは一期一会である」ということです。

今回、私が担当させていただいた「スタート・手荷物預かり」(スタートの東京都庁前でランナーから指定の袋に入った手荷物を預かってトラックに積み、10キロのゴール・日比谷公園とマラソンのゴール・東京ビッグサイトへと運搬する)では、約700名が活動しましたが、そのうち7割が授業の一環として参加した、都立高校生の皆さんでした。興味もモチベーションも様々ですが、そんな彼らと、孫と祖父母くらい年の差のある一般ボランティアの皆さんとをチームとしてまとめ、適切な状況判断の上で、楽しく明るい雰囲気を作り、「ボランティアが楽しかった」と思ってもらえることが最重要なのです。

また、ボランティアの笑顔は、自然とランナーも笑顔にします。「いってらっしゃい」「がんばってくださいね」の一言は、ボランティアの笑顔の中からは生まれてこない、と言っても過言ではないと思います。言葉だけでない、笑顔の中から生まれた言葉が、ランナーの心を温めるのだと思います。ですので、リーダーとは、笑顔を生み出す準備をする立場である、ということです。

また私たちキャプテンは、リーダー及びグループのみなさんが現場作業に集中できるよう、よりよい環境を整えてあげることが仕事でした。そう考えながら現場を見渡すことによって、私自身も新たな課題をいただいた気がします。

マラソンのボランティアは、実施機会たった1回のために、こうした入念な準備を重ね、当日を迎えることは、とてもよいことではありますが、たった1回の出会いでそれを成し遂げるのは、ある意味とても過酷ではあります。しかし、それを楽しみに変えるパワーとバイタリティを、「東京マラソン」から教えていただいているような、そんな気がしています。

H・I

## 関連書籍紹介 「東京マラソン」 遠藤 雅彦 著 ベースボール・マガジン社新書

2007年からスタートした「東京マラソン」、その事前の準備段階から第1回の大会の終了までを主催する側の視点で紹介した本で、読みやすく、失敗や苦労も含めて熱い思いが伝わる内容となっている。何よりボランティアにも目を向け、大会が終了したあとにボランティアに送るお礼のカードに入れたメッセージ「あなたがいたから」にこめられた気持ちがあたたかい。



FROM 新潟

アルビレックス新潟ボランティア募集について

アルビレックス新潟は、1999年からボランティア募集を始めました。2001年にビッグスワンスタジアムが完成し、ホームゲームの運営に携わるボランティアの活動量は、それまでの新潟市陸上競技場とは比較にならないほど増加しました。幸いにもW杯開催やJ1昇格などサッカーやアルビレックス新潟に関心を抱いたいただけるイベントが2002年以降にあったことから、ボランティアに登録される方は右肩上がりでした。そして、チームがサテライト、レディースというカテゴリーを加えていく中で、ボランティアの活動範囲も広がり、それぞれのカテゴリーで様々なやりがい、楽しみを見つけて活動される人が増えています。

そして、新潟は仙台市と同様にサッカー以外にもプロスポーツチームが存在することから、これからは各スポーツのボランティアの皆さんとのネットワークづくりが重要になってきています。1年を通してスポーツを楽しめる環境が整う新潟。チームと共に成長していく仲間をチームは求めています。

アルビレックス新潟のホームページ参照

<http://www.albirex.co.jp/>

アルビレックス新潟ボランティアのホームページ参照

<http://albirex-volunteer.spaces.live.com/>

FROM 山形

モンテディオ山形ボランティアスタッフ(MVS)募集について

東北スポーツボランティアサミットでも説明がありましたが、従来別組織のAile(エール)が運営していたモンテディオ山形のゲーム運営ボランティアが、本年よりクラブ直轄となります。名称は「モンテディオ山形ボランティアスタッフ」(MVS)、2月16日にクラブのホームページに掲載された募集要項によれば、主な業務はNDソフトスタジアム山形でのモンテディオ山形ホームゲーム運営補助業務で、設営・撤収からゲート管理・観客案内・清掃など多岐にわたります。

参加資格は高校生以上(高校生は保護者の同意が必要)、3月1日・2日にボランティア説明会が予定されています。尚、同時にマスコットのディーオのボランティアも募集しています。

詳しくはクラブ公式ホームページ参照

[http://www.montedio.or.jp/news/news\\_080216\\_1.htm](http://www.montedio.or.jp/news/news_080216_1.htm)

FROM 宮城

プロ野球、東北楽天ゴールデンイーグルス・ボランティア

毎年恒例の「救命セミナー」を開催、AEDの使い方などを実施で研修



2008年1月27日、毎年恒例となっている「救命セミナー」が新たに「クリネックススタジアム宮城」という名称になった通称「Kスタ」にて開催されました。

会場と講師の関係で今回はリーダーに限定しての開催でしたが参加した18名は、長いシーズンに予測される緊急時に対し、「救命処置」の流れを実践も交えて真剣に学びました。次に急速に普及しつつあるAEDについて、取り付けから操作方法を体験します。仙台の場合、大きなスポーツ施設はもとより地下鉄駅や行政機関、大型ショッピングセンターなどに設置されていますが、参加者の多くが機械に触れるのは初めてということで、いい経験になりました。

こうした救命講習は全国の消防署でも随時無料で受け付けており、ぜひ、年に1回は受講してほしいとのことでした。尚、Kスタで医療の関係者で組織するボランティアがゲーム開催時には活動しており、ひとつの特色となっています。 仙台市消防局「救命処置と止血法」HP

<http://www.city.sendai.jp/syoubou/kyuukyu/kyumei/syochi.html#01>

FROM 広島

広島市スポーツ協会ボランティア、本年よりカープの支援本格化

スポーツのボランティア組織の中でも広島では財団法人広島市スポーツ協会が中心となっており、登録した市民ボランティアが、リーグのサンフレッチェ広島や、ハンドボールなどさまざまなスポーツのサポートを行う横断型の活動を続けてきました。ここに本年より2007年はジャイアンツ戦のなど一部だけだったプロ野球の広島カープのゲームサポート活動が本格的に加わることとなりました。

< 広島市スポーツ協会ボランティアの平成19年活動実績は、活動人数延べ2,052人、活動回数は延べ40回 >

詳しくは(財)広島市スポーツ協会ホームページ <http://www.sports-or.city.hiroshima.jp/attend/index.html>





## スポーツ ボランティア を考える

このコラムでの「スポーツボランティア」という言葉は、かなり狭い意味あいで使用しています。つまり、単発あるいは継続的なスポーツ・イベントの運営やその運営組織を自発的に支える人々なり団体をさしているということをご理解ください。実際には他にも地域でスポーツの指導や子供たちの大会を支える人もいれば、学校や企業スポーツに関わっているボランティアの方々もいますが、このコラムでは取り上げておりません。ただし、両者に共通しているのは支えようという「思い」であり、その思いを「形」にしたもののひとつが「ボランティア」の活動になっているということです。

### スポーツボランティアの組織

近年、「地域密着」を標榜し様々なプロスポーツチームが各地に誕生しています。その多くで継続的に活動するボランティア制度が採用されています。また、今後プロのリーグをめざすクラブも多く、ますます地域で活動するスポーツボランティアは増加すると考えられます。多くの場合、スタッフが少なく時間も限られた中でボランティア組織を作り上げることは決して簡単なことではありません。そのため私たちにも過去に助言を求められたことが何件ありました。こうした経験をもとにここでは「組織から運営」のポイントをまとめてみたいと思います。既にボランティア活動をしている人や、これから参加する人々にとっても考えるきっかけになれば幸いです。

#### 1. スポーツボランティアの基礎知識

##### (1) ボランティア組織の形を考えてみましょう。

###### 活動の期間による分類

- 単発型 = 毎年同じ場所で開催される大会のための組織 (例: 仙台国際ハーフマラソンなど)
- = 毎年違う場所で開催される大会のための組織 (例: 国民体育大会など)
- = 特定の期間・特定の場所で開催される大会のための組織  
(例: 2002年のサッカーの日韓ワールドカップなど)
- 継続型 = 特定のプロスポーツチームやスポーツ施設のための組織  
(例: Jリーグ・bjリーグ・独立リーグなど)
- = 特定のスポーツ施設のための組織 (例: スタジアムボランティアなど)

###### 運営する組織による分類

単発のスポーツ・イベントの場合の多くは、その期間に設けられる開催のための組織(実行委員会など)や、毎年繰り返し決められた期間に開催されるイベントの場合は、その開催地域のスポーツ団体がボランティアを募集し組織化するとともに、運営のためのサポートを行い、開催期間が終了すると組織は解散するか休眠するケースが多く見られます。(本来毎年開催するイベントの場合は、何らかの形で組織を生かしていく工夫が必要ですし、経験をいかしていくことも大切ですが、現実にはそうした事例はあまりありません)

一方、継続型のボランティア組織については、様々な形態があります。下記にその代表的なものを掲げます。組織にはそれぞれのメリット・デメリットがありますが、現状は成長の過程の段階と考えられます。

##### 図 ( 継続型スポーツボランティア組織の形態 )

組織名	組織内容	一例
主催者型	もっとも中心的な形で、スポーツイベントを運営するクラブやチームが組織する形	楽天イーグルス (プロ野球) 東京ヴェルディ1969 (Jリーグ) 仙台89ERS (bjリーグ)
後援会型	特定のクラブやチームを応援する後援会がボランティアを組織する形	浦和レッズ後援会 柏レイソル後援会
行政型	行政やその関係機関がボランティアを組織しイベントに派遣する形	広島スポーツ協会
施設型	特定のスポーツ施設のためにボランティアが組織化される形	日産スタジアム (神奈川) グランディ・21 (宮城)
市民型	市民有志がボランティア組織を作り各種のスポーツをサポートする形	Alliance 2002 (新潟) SV2004 (宮城)

現在はスポーツのイベント主催者がボランティアを組織化する「主催者型」がスポーツのボランティアの中心となっていますが、社会的な指定管理者制度の拡大などにともない、主催する会社が施設全体の管理者になるケースもあり、それに合わせて「施設型」を採用するケースも増える傾向にあります。ひとつの地域に複数の組織が活動するケースが増え、そこで横の連動がはじまることで「市民型」への動きもみえつつあります。

[ SVボランティア・ハンドブックより ]



# SV2004について

## 【誕生の経緯】

SVとは、文字通り「スポーツボランティア」の略であり、1998年からスタートした「ブランメル仙台」(現在はJ2ベガルタ仙台)のボランティアや2001年の国体、2002年のワールドカップ宮城大会のボランティア経験者の有志が集まり、幅広いスポーツをボランティアとしてサポートする目的で2004年に発足しました。

## 役割 (ミッション)

スポーツをより楽しくコーディネートし、ネットワークを通じて、環境改善にも取り組むことでスポーツの振興と、スポーツに関わる人々の社会的認知を高めることに貢献します。

私たちはスポーツのボランティア活動は「楽しく」あるべきだと思います  
そのため、ボランティアと運営組織、ボランティア同士のコミュニケーションを大切にします  
思いをともにする人々とのネットワークを構築します  
活動するボランティア環境の改善、そしてエコ活動にも取り組みます  
サポートするイベントが継続しよりよいものになるようサポートします  
スポーツボランティアの活動が多くの人に理解し知っていただけるよう活動します

## 活動 (アクション)

活動の記録・報告はSVホームページをご覧ください

スポーツ全般のコーディネート活動 … 楽天イーグルス・仙台89ERSボランティア組織立ち上げサポートなど  
スポーツ及びボランティアのセミナー活動 … 接客・エコ・救命・災害・コミュニケーション・入門セミナーなど多数  
スポーツに関する調査・企画・提案活動 … ボランティアアンケートの実施など  
スポーツ情報発信活動 … SVニュース、ホームページからの情報発信など  
スポーツネットワーク・交流活動 … 全国スポーツボランティアとの交流会の開催、東北スポーツボランティアサミットの開催  
スポーツ環境改善活動 … チーム・マイナス6%との連動・エコステーションの普及取り組みなど

会員募集中！自主企画も含めたSV活動全般に参加する正会員とボランティア活動のみを行う準会員  
・活動趣旨に賛同するサポート会員があります

## 【入会方法】

正会員 … 年会費3,000円 ・ 学生は1,500円 (年度は4月～翌年3月となります)

準会員 … 年会費500円 サポート会員 … 年会費2,000円

お支払い方法…郵便振込み 郵便口座 18190-25930651 SV2004まで(振込み料はご負担願います)

または、SVが主催するイベント会場にて入会を受け付けます。(イベントはホームページでご案内します)

申し込み先 郵送の場合 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4丁目1-3 仙台市市民活動サポートセンター SV2004

レターケースNO.50 (必ずレターケースNOをご記入ください)

メールの場合 izumita@dm.mbn.or.jp FAX 022-274-1469

申し込み書はホームページよりダウンロードできます <http://www.miyagi-sports.net/sv2004>

多くのクラブでボランティアを募集中です

J1クラブ・ボランティア < 各クラブの公式ホームページより >

- 【 コンサドーレ札幌 】 ボランティアページ <http://www.consadole-sapporo.jp/club/volunteer.html>
  - 【 アルビレックス新潟 】 ボランティアページ <http://www.albirex.co.jp/>
  - 【 鹿島アントラーズ 】 ボランティアページ [http://www.so-net.ne.jp/antlers/news/detail/20071225\\_12\\_1057.html](http://www.so-net.ne.jp/antlers/news/detail/20071225_12_1057.html)
  - 【 浦和レッズ 】 後援会スチュワードページ <http://www.reds-ss.com/steward/index.html>
  - 【 大宮アルディージャ 】 サポートスタッフページ <http://www.ardija.co.jp/fanzone/staff/index.html>
  - 【 柏レイソル 】 後援会ボランティアスタッフ ページ <http://park18.wakwak.com/reysol-kouenkai/>
  - 【 ジェフ千葉 】 ボランティア ページ  
[http://www.so-net.ne.jp/JEFUNITED/tools/cgi-bin/view\\_news.cgi?action=view&nid=3448](http://www.so-net.ne.jp/JEFUNITED/tools/cgi-bin/view_news.cgi?action=view&nid=3448)
  - 【 東京ヴェルディ1969 】 スタジアムアテンダント ページ <http://www.verdy.co.jp/attendant.html>
  - 【 FC東京 】 市民サポートボランティア ページ <http://www.fctokyo.gr.jp/>
  - 【 川崎フロンターレ 】 ボランティアページ <http://www.frontale.co.jp/volunteer/index.html>
  - 【 横浜Fマリノス 】 日産スタジアムボランティアページ <http://www.nissan-stadium.jp/volunteer/>
  - 【 清水エスパルス 】 市民運営ボランティア ページ <http://pulpul.eshizuoka.jp/e73202.html>
  - 【 ジュビロ磐田 】 磐田スポーツアシストクラブ ページ <http://hometown-iwata.seesaa.net/>
  - 【 京都サンガ 】 京都+ (プラス)スタッフ ページ <http://kyotosanga.jp/index.php?PAGE=6&ID=6685&WID=1>
  - 【 ガンバ大阪 】 ガンバクラッサ ページ <http://www.gamba-osaka.net/fanclub/grassa.html>
  - 【 ヴィッセル神戸 】 ボランティア ページは見つけれませんが、スタジアムボランティアとして活動していると思います。
  - 【 大分トリニータ 】 ボランティア ページ [http://www.oita-trinita.co.jp/information.php?\\_mode=detail&id=1560](http://www.oita-trinita.co.jp/information.php?_mode=detail&id=1560)
  - 【 名古屋グランパス 】 ボランティアページはありません クラブHP <http://www.so-net.ne.jp/grampus/>
- (注意) 内容は08年2月22日段階のもので、各クラブの都合により変更される場合がありますのでご了承ください。

THANKS < 今月号のSVニュースの発行に対しご協力いただいた皆様、ありがとうございました。順不同 >

金子 法泰 さん 亀田 武志 さん 飯塚 寿代 さん 和智 章 さん

**スポーツボランティアの前向きな情報(募集・活動報告など)  
を募集いたします。経験をいかし、成功事例を学ぶ場として  
SVニュース活用願います。(提供先は下記に記載)**

## 編集後記

スポーツのボランティアは着実に増加しているはずですが、何故なら東京マラソンのように巨大なイベントが誕生し多くのボランティアが活動していること、また全国各地にプロのスポーツチームが誕生し、その大半にボランティア組織があるからです。一方で既存の組織ではボランティアが減少し、なかなか安定した活動ができないという話しがきかれます。そこには経験が蓄積されず活用できないことや、人が育たないこと、コミュニケーションが十分ではないなど共通の課題が見え隠れします。本来は「楽しい」からこそ続けられるボランティア活動にどうしたら継続するための魅力を作り出せるのか、互いに役立つ情報を交換し、一方で流れざるスポーツボランティアの姿を記録することができたら、そんな思いでこの「SVニュース」を作り始めました。

まだまだネットワークも不足していますし、情報の整理も不十分なものですが、今後に向けて可能性を感じていただければ幸いです。この情報紙が本当に活用できるものとするには、多くの皆様の協力が不可欠です。「思い」を「形」に、皆さんのスポーツボランティアの活動が素晴らしいものになりますように。

SV公式ホームページでもご覧いただけます。 <http://www.miyagi-sports.net/sv2004/index.php>

スポーツボランティア活動に関する情報をお寄せください。また、毎月発行する「SVニュース」を定期的にご覧になりたい方は、所属・氏名・住所・電話番号・E-mailアドレスを記入の上、メルタイトルに「SVニュース購読」と記載のうえ下記アドレスにお申込下さい。

情報提供・定期購読申込先 [izumita@dm.mbn.or.jp](mailto:izumita@dm.mbn.or.jp)